

編集者の 独り言

本号もご覧いただき、ありがとうございました。学生時代から読み続けてきた本誌に、編集委員として関わる機会をいただき、大変感慨深く感じています。毎号、最先端で独創的な研究内容に触れられることを楽しみにしています。

本誌の読者の多くは研究に携わっておられると思いますが、皆様それぞれ「独創的」な取り組みをされていることでしょうか。この「独創性」はどこで養われるのでしょうか。私事ではありますが、建築学部在籍している娘が、今まさに「個性的・独創的」な設計に苦戦している様子を見て、改めて考えさせられました。

日本の教育環境を振り返ると、保育園や幼稚園の頃から決まった時間に全員で同じ活動を行い、制服がある園では同じ服装で過ごします。小学校以降も挨拶や行動様式はそろえられ、一問一答形式の学習が中心となる場面も多く見られます。近年は主体的・対話的な学びも取り入れられ、変化しつつありますが、これまでのように規律や協調性を重んじる環境は居心地の良さもある一方で、「みな同じであること」に安心を見いだす空気をつくってきた側面もあるのではないのでしょうか。そのような環境で育った学生さんが、大学や就

職活動の場で突然「個性」や「独創性」を求められるとなれば、戸惑いが大きいのも無理はありません。実際、就職活動では同じ服装・同じ髪型で臨みながら、自分の個性を限られた時間で表現しようとする姿に違和感を覚えることもあります。

一方で、私が子供たちをニュージーランドの保育園に預けた際には、全く異なる光景を目にしました。1日の中で決まっているのは昼食の時間程度で、それ以外の時間は、砂遊びやお絵描きなど好きなことに、自分が納得いくまで取り組むことができました。帰国後、現地の友人の子供から届いた手紙は、アルファベット一文字ごとに異なる色で書かれており、その自由な表現に強い印象を受けました。こうした経験から、育つ環境の違いの大きさを実感しました。

独創性とは、こうした自ら選び、納得するまで考え抜く経験の中で育まれるものではないでしょうか。そしてそれは、新たな価値を生み出し、社会を前進させる原動力でもあります。本誌で紹介される研究の多くも、そのような積み重ねの上にあるものと感じています。教育の在り方とともに、科学技術が発展し、より良い社会が築かれていくことを期待しています。

(八波利恵)

カラー写真ご提供のお願い

化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき、電子ファイルの場合には高解像度のもの(300DPI以上)をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真—カラフルな物質、化学模型、電顕写真、実験機器、化学プラントなど

送付・問合せ先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会 学術情報部 「化学と工業」誌担当
FAX(03)3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



キキョウ 務台 潔

[正誤訂正]

本誌 79 巻 (2026) 7 月号 498 ページ「CCI サロン 化学よもやま話 47」中のサリシンの構造式、正しくは下記となります。

